

# MMR方式

Modified Modified Read (MMR) system

MMR方式は、CCITT(現ITU-T)により1984年に標準化されたG4ファクシミリ用の符号化(圧縮)方式である。すでに標準化されていたMH方式とMR方式をもとに、2次元符号化方式や誤り訂正機能などの新技術を採用し、高速通信を可能にした。この方式は、1988年以降にはG3ファクシミリにも採用されている。

## MH方式とMR方式のデータ構造

Data structures in MH and MR methods

### MH符号の構造



E O L : ラインの区切りを表す符号

D A T A : 符号語の列

F I L L : 符号語の長さを調整する符号(データが短くて装置の処理が追いつけなくなることを防ぐために使用する)

R T C : データの最後を示す符号

RTC

### MR符号の構造



E O L + 1 : 次のラインが1次元符号

E O L + 0 : 次のラインが2次元符号

D A T A : 符号語の列

F I L L : 符号語の長さを調整する符号

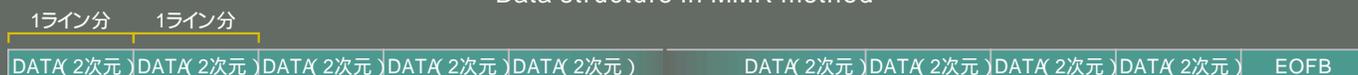
R T C : データの最後を示す符号

RTC

## MMR方式のデータ構造

Data structure in MMR method

### MMR符号の構造



D A T A : 符号語の列

E O F B : データの最後を示す符号